

テンペラ画講習会

都立文京盲学校教諭 山 本

1. はじめに

都立文京盲学校高等部の教員になり美工研に参加して6,7年たちました。この間に何度か夏の研修会に参加させてもらいました。今回のテンペラ画は油絵専攻の私にとって興味はあってもしたことが無かったので「やったー」と思って参加しました。研修は3日間でキャンバス作りから始めて、ティツァーノを模写するというハードスケジュールでした。でも、講師の工藤先生がキャンバスなど準備してくださいましたので、ちょうど3日間で完成することができました。

2. 研修会について

日時 平成24年8月20日(月)～22日(水)

時間 9:00～16:00

場所 創形美術学校

講師 工藤 礼二郎

(創形美術学校 ファインアート科専任・無所属)

内容 テンペラ画 混合技法(エマルジョンテンペラ×油彩)による古典模写の制作

3. 制作

<1日目>

(1) 技法説明

テンペラの技法はいろいろな方法があるようで(奥が深い)覚えることができませんでしたので、そのときいただいた資料を書き写します。

①白亜地キャンバス

膠水 / 粒ウサギ膠 1:水10(質量比)を一昼夜、膨潤させ60℃以下で湯煎したもの。

白亜地 / 上記、膠水 1:炭酸カルシウム 1.5:チタニウム白0.5(体積比)を攪拌し2

～3の水で希釈する。

②テンペラ媒材

全卵(卵黄+卵白) 1:油性分 1(体積比)

* カラザと卵黄の膜は取り除く。

* 油性分=ダンマル樹脂溶液 2:スタンドオイル 1(体積比)

* 適当な広口瓶に上記の材料を入れ乳化するまで振り混ぜる。

* 使用時に適宜、水で希釈する。

③油絵の具媒材

ダンマル樹脂溶液 2 もしくは コパール樹脂溶液 2:テレピン油 2:スタンドオイル 1(体積比)

* 目盛りをうった瓶に順番にいれ振り混ぜる。

(2) キャンバス制作

木枠に白亜地を塗る前の麻布を張りしました。下地の塗ってあるキャンバスと違い力を加減して張ります。布の縦目と横目を木枠に合わせて、その布目になるべく枠に対して平行になるように、あまり力いっぱい引っ張り過ぎずなど、加減が難しかったです。張った後の布地に、白亜地を大きな刷毛で均一に塗りました。刷毛の塗り方にもちょっとしたコツがあり、キャンバスの縁に刷毛の水分が偏ってしまわないように、塗りはじめをキャンバスの縁より少し内側から塗り始めるなど、ニス塗りにも応用できそうなことを教えてもらいました。

テンペラ画制作のときには、本来はキャンバス作りから始めるようですが、今回の研修は3日間で完成させる工程なので、工藤先生があらかじめキャンバス1枚を準備してくれました。自分で作ったキャンバスは乾かして、最後の日に持ち帰りました。

(3) 図版トレース(ティツァーノ「鏡の前の女」顔を中心とした部分)

カラーで印刷されたティツァーノの原画をもとにして、鉛筆でトレース紙に写し取りました。トレースした裏に薄い墨汁を塗って

キャンバスの上に置き、もう一度鉛筆で線をなぞりキャンバスに写しました。トレースしたキャンバスに墨入れ（墨汁を使って細かい線描きで影や暗い部分をデッサンする）をしました。（4）展色剤作り・インプリマトウラ（有色下地）塗布

ティツアーノの時代にも使われていたと思われる下地の色（テールベルト）を溶き油で薄く溶いてキャンバス全面に塗りました。



<2日目>

（1）展色剤作り・テンペラ白による白色浮出

テンペラ白による明暗デッサン（面相筆を使い、明るい部分を描きだす）をしました。最近、このような細かい仕事を集中したことはありませんでした。他の先生方も夢中で描いていました。昼食の時間を惜しんで作業を続けている先生もいました。やはり美術の先生、やりだしたらとことん納得いくまで描かないと気がすまないようでした。白色浮出が早く終わった先生は午前中から油彩による透層（イエローオーカーをはじめ当時使われていたと思われる色を使って、肌色や髪の色、衣服の色などを塗り重ねによって表現する）を始めた先生もいました。

（2）テンペラ白による白色浮出・油彩による透層

2日目の午後はみんな必死に描きまくっていました。固有色がついてきてほぼ完成の先生もいれば、徹底的に白色浮出をしている先生もいました。皆さんすごい集中力です。

<3日目>

（1）テンペラ白による白色浮出・油彩による透層

最終日は時間との勝負で、仕上げに向かってまっしぐらに描きました。早い先生は午前中で終わって、別な自分の作品を描き込んでいる先生もいました。制作の合間に他の先生の作品を見て感心し、版画の研修室をのぞいて気分転換をしました。おまけに、牛乳パックで手軽にできる版画を講師の先生に教えてもらうなど得した気分になりました。

（2）油彩による透層・仕上げ

全体の色合いや形のバランスをとりながら仕上げをしました。今回のテンペラ技法が初めての私にとっては、仕上げをしながら墨入れや白色浮出をもう少しいねいにすればよかったなど、3日間やってきた工程を振り返ることができました。

4. 最後に

反省会ではテンペラ画や版画研修で描いた作品をテーブルに並べてみんなで見合いました。ティツアーノの同じ絵をみんなで描いたのに、それぞれの先生の特徴が出て面白かったです。いったん締めたあとには、飲み物やつまみも出て、いろんな先生と交流を深めることができ、私にとっては充実した時間を過ごすことができました。このように充実した時間を持つことが授業にもいい影響をもたらすと、こじつけかもしれませんが思っています。

